Innovative
Newsletter

Vol. 002

長崎大学の
教育活動を
バックアップ
するために

2016. July

学生をアクティブにする授業の“隠し味”

学生を授業に対して受動的な状態から能動的でアクティブな状態へ変えるために、本学でも授業設計の工夫や、一つひとつの講義で行う活動の工夫が取り組まれています。様々な授業を観察していると、一見すると活動的ではなく静かな授業であっても、学生の頭の中がしっかりと「回転」していて「脳に汗をかく」ような授業となっていることがあります。そのような、思考を活性化している授業の特徴として挙げられるのは、学生が取り組むべき活動や課題が明示されていること、そして学んだことを活かして考えるべき興味をそそるような問いが提供されていることの２点です。

今回はそのような授業の好例として、歯学部の真鍋義孝先生の授業「歯の進化と人類学」（全学モジュールⅠ科目）の様子を紹介したいと思います。

この授業は、歯から生物の進化をたどっていく内容で、序盤の講義では生物の進化と繁栄の歴史を歯と顎の構造や性質の進化から読み解き、分類する方法が解説されました。講義では時折、先生から「犬と猫ではどちらの方がより肉食の歯をしているか」のような質問が投げかけられることもあり、それまでに学んだ内容から推測して、各自が答えを出して挙手をする場面もありました。毎回の講義の後には､記述式の小テストが行われ、重要なことがらの確認がされました。テストの正答はその場で示されて、確認のための解説も加えられるため、間違った答えを出した学生も修正することができました。授業の終盤には、本物の哺乳類の顎の骨を用いた鑑別実習が計画されていて授業のハイライトとも言える活動でした。注目したいのは、鑑別実習を通じて鑑別課題を繰り返し解いていくなかで、学生の間で「歯式はなんだろう？」「犬歯が無いみたいだ」などという会話があり、分類の観点として重要な知識が実際に運用されるようになっていったことでした。知識の定着ということだけでなく、授業の全体を通じて科学的な思考様式が体得されていったというように見えます。実際に授業を終えた学生に話を聞くと、複数の学生から、「講義で学んだことを実習の際に活かせた」という趣旨のコメントがありました。

このように、講義（座学）が中心となる授業にも、適切な課題が設けられていたり、話の途中に考えるべき問いを提供したりすることで、学生を「ただ漫然と聞いている状態」から「主体的に聞いている状態」に導くことができます。そして、講義で学んだ知識を実際に運用・活用する場面として、グループでのディスカッションや実習など比較的高度なアクティブ・ラーニングの技法を取り入れてみることも学生の成長につながると言えます。

数字でみて長大！

教学 IR 部門より

本学では学生の学習行動を把握するため、2013 年度から大学 IR コンソーシアムに加盟し（2016 年度に全国 44 大学が加盟）、1 年生と 3 年生を対象に学生調査を実施しています。今回はこの調査結果から授業外学習時間について報告します。

文部科学省は大学設置基準で「1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準」とすると定めています。これは通常の半期 15 回（2 単位）の講義であれば、週に 4 時間の授業外学習時間が求められていることを意味します。仮に学生が週に 5 コマ履修していれば、単純計算で週 20 時間の授業外学習時間が必要ということになります。

Figure 1 で 2015 年度の長崎大学の授業外学習時間の平均を見ると、授業に関連するものは 1 年生で 4.6 時間、3 年生で 4.8 時間、授業に関連しない自主的学習は 1 年生で 1.5 時間、3 年生で 2.5 時間、両方合わせると 1 年生で 6.1 時間、3 年生で 7.3 時間という結果でした。これは、IR コンソーシアムに加盟している全大学と比べると若干、長いですが、国公立大学の平均より短い結果です。

学部・学科別に見ると、授業に関連する学習時間が最も長いのは 1 年生では多文化社会学部の 9.1 時間、3 年生では保健学科の 6.6 時間でした。自主的学習時間と合わせると、1 年生では多文化社会学部の 12.1 時間、3 年生では教育学部の 9.5 時間が最も長くなっていました。3 年生になると多くの学部で学習時間が増えますが、とくに歯学部では 1 年生と比べて 4.4 時間、長くなっていました。

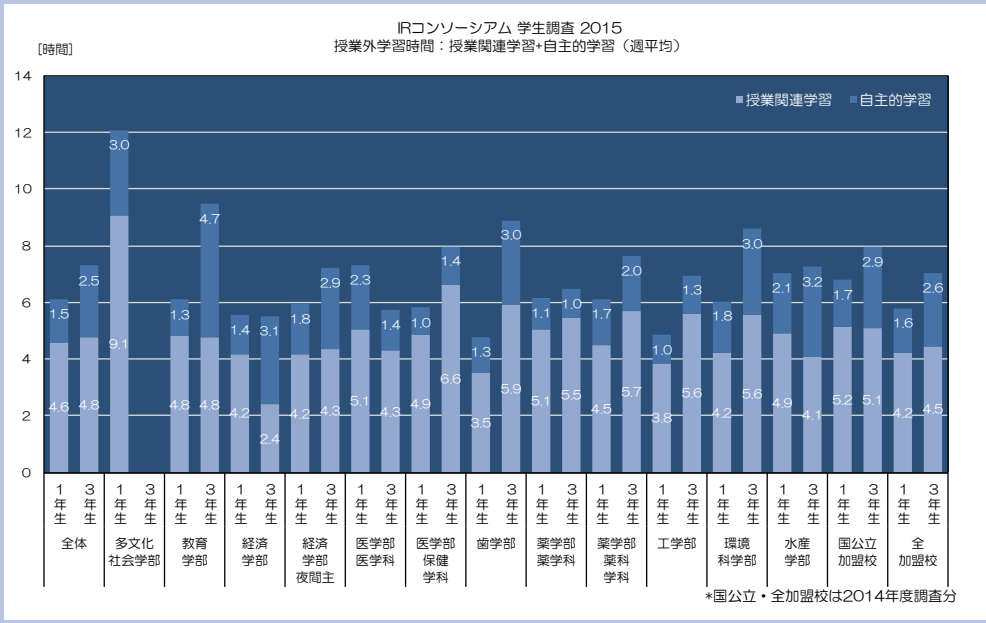

Figure 1　長大生の授業外学習時間

以上が本学の学生の授業外学習時間の結果ですが、文科省の定義から考えるとまだまだ短いのが現状です。学生が授業外でも学習するよう働きかけることがいま教員に求められています。採点の必要のある課題を出すだけではなく、LACS の掲示板にそのテーマについて意見や質問を書き込ませ、それを学生同士で見合ったりすることで内容の理解を深めてもらったり、電車の中での語学のリスニングを勧めたり、プレゼンの準備をさせたりすることも不可欠な学習です。机に向かって行うものだけが学習ではないのです。

学生に考えさせる問い

学んだことをまとめる時間

学んだ知識を使って出動

座

記憶に残る アクティブ・ラーニング

社会人経験後に学生に戻った私は、比較的まじめな学生でした。当時は「アクティブ・ラーニング」という言葉は出始めで、シラバスにも載ってはいませんでしたが、思い返してみると、「すごいアクティブ・ラーニングだったな」と思う授業がいくつかあります。その中から、経済学部 松本睦樹先生の「外国経済史」をご紹介します。

外国経済史は経済学部専門科目のひとつで、一コマ九〇分中、六〇分が講義、残り三〇分で講義のまとめをレポートにして提出する、というスタイルでした。レポートは5点満点（3点が標準）で、数回の中間テスト前に返却されます。企業勤務時代に「会議議事録はその場で仕上げる」というルールで鍛えられていたつもりでしたが、三〇分で手書きレポートを仕上げるのは非常に苦しいものでした。ぼんやりと講義に出てノートを取っていても良いレポートを書き上げることはできません。

そこで『もういちど読む　山川世界史』で次回の時代背景を確認して講義に臨み、この説明とこの説明をどうつなげるか、まとめるとこの部分はどう表現できるか、を常に意識しながら、脳みそフル回転でノートをとりました。先生からの攻撃（講義）をどう受け止めて、先生が言いたいことを読み取りどう反撃（表現）するか…。提出した時点で脳はヘトヘト、腕はガクガク。低血糖状態で震えを覚えたことも数回ありました。苦労の甲斐あって5点のレポートを受け取ったときは、先生からの「よく理解している」というメッセージと思い、心の中でガッツポーズです。

現在起きていることを考える上で歴史に学ぶことは大切です。世界史の動きの裏にあった経済の動きを学ぶことで、より深い視点で物事をとらえられるようになりました。ヨーロッパ系の友人と話す際にも、彼・彼女らの考え方を少し理解できるようになった気がします。

アクティブ・ラーニングは、「能動的な学び」の他に「脳働的な学び」と表現されることもあります。「外国経済史」はまさに「脳働的な学び」だったと、いまでも感じます。

大学教育イノベーションセンター
技術補佐員　花堂奈緒子
（経済学部夜間主コース卒）

↑授業中に書いたレポートはノートと共に
今も大切に保管している

学生による教育改善のための協議会より

今年度は、平成29年度に教養教育（自由選択科目）に「学生発案型授業をつくる」という目標を立てて活動をしています。これまで他大学の学生発案型授業を調べたり、昨年度に全学部2年次生を対象に実施した「どのような授業を求めているか」というアンケート調査の結果等をもとに、学生が満足できる授業の設計に取り組んでいます。特に、社会人基礎力の養成を目的とし、チームでの議論を中心とするアクティブ・ラーニング型の授業を考え、メンバー全員でシラバス案を作成しているところです。具体的にどのような授業内容にするか、どの先生に授業を担当していただくか等、検討事項は山積みです。

なお、長崎大学FD・SDサマーワークショップでは、8月29日（月）15:00-17:00に「学生とともに進める教育改善」と題して、学生協議会主催のプログラムが開催されます。その中で、日頃、授業を行っている先生方と「大学における授業とはどうあるべきか」など意見交換をし、私たちが考えた学生発案型授業の内容をブラッシュアップできれば嬉しいです。最終的には3月に開催される「学長との意見交換会」でその場にいる全員が納得できる授業案を提示し、学生発案型授業を開講できれば良いと考えています。上記FDへのご参加と今後の学生発案型授業の完成への動向にご注目ください！

学生による教育改善のための協議会
広報グループリーダー　鈴木航太（水産学部3年）

学生が発言する機会
学生が考えるための時間
学生協議会

FD・SD サマーワークショップのご案内

2016 8月 後半 ①学生の創造的思考を促す授業を考える

日時： 複数回（8 月下旬、9 月中旬に対象者と調整 ）

場所： 第五会議室（教育学部 2 階）

内容： 全学モジュール II の授業者を対象として、課題解決型の授業の進め方を体験型で紹介します。また、授業で取り組むテーマの例を参考にしながら、実際に参加者とテーマ決めのワークをしていきます。

2016 8月 29日 ②組織的なアクティブ・ラーニングの効果について考える

日時： 8 月 29 日（月） 10:30 ～ 12:00

場所： 第五会議室（教育学部 2 階）

内容： 「学修に関する調査」の結果報告を行い、アクティブ・ラーニングの教育効果に関して意見交換を行います。さらに、課題を整理した上で、深い学習アプローチに向けた授業内容について検討をしていきます。

2016 8月 29日 ③学生とともに進める教育改善 ―大学教育におけるよい授業とは何か―

日時： 8 月 29 日（月） 15:00 ～ 17:00

場所： 第五会議室（教育学部 2 階）

内容： 学生による教育改善のための協議会の活動状況を報告し、参加者との自由な意見交換を行い、学生発案型授業案のブラッシュアップを行います。

2016 8月 30日 ④授業設計入門

日時： 8 月 30 日（火） 10:30 ～ 12:00

場所： 第五会議室（教育学部 2 階）

内容： インストラクショナルデザインの考え方を援用したシラバス作成の手順を紹介します。また、授業で活用できる汎用的な教材を提供して具体的な授業実施につながる支援をします。

2016 8月 30日 ⑤長大生の学習行動から考える教育改善 ―学生調査結果報告―

日時： 8 月 30 日（火） 13:00 ～ 14:30

場所： 第五会議室（教育学部 2 階）

内容： 2013 ～ 2015 年度に 1 年生と 3 年生に対して実施した学生調査の結果を報告し、現状の教育のあり方を振り返って議論します。

2016 8月 31日 ⑥簡単に導入できるアクティブ・ラーニング―問いを変えると授業が変わる―

日時： 8 月 31 日（水） 10:30 ～ 12:00

場所： 第五会議室（教育学部 2 階）

内容： 授業の中での発問のバリエーションとその機能など基本的な事柄を紹介した上で、参加者それぞれの授業で実際に使える問いをつくることを目指します。

2016 8月 31日 ⑦障がい・不当な差別的取扱いの禁止・合理的配慮について考える

日時： 8 月 31 日（水） 13:00 ～ 14:30

場所： 第五会議室（教育学部 2 階）

内容： 本プログラムでは、「長崎大学における障害者差別解消等の推進に関する規則」の解説に加えて事例を通して授業等における合理的配慮の実践を検討し、教育活動の改善への貢献をめざします。

2016 9月 1日 ⑧共感を得る話し方のコツ

日時： 9 月 1 日（木） 13:00 ～ 14:30

場所： 第五会議室（教育学部 2 階）

内容： 「説得話法」や「ストーリーテリング」など、スピーチ、プレゼンテーションのテクニックをワーク中心に紹介します。

2016 9月 2日 ⑨授業で使える動画コンテンツ作成クリニック

日時： 9 月 2 日（金） 10:30 ～ 12:00

場所： A12 教室（教養教育棟）

内容： 可能な限り特別な機材や有料のアプリケーションソフトウェアを使わずに、動画コンテンツを作成する環境の導入方法から基本的な使い方までを紹介します。

◆申し込み方法

②～⑨のプログラムについては、次の Web ページの申し込みフォームから、各プログラム実施日の 3 日前までにお申し込みください。

http://www.innov.nagasaki-u.ac.jp/teacher/fd28sum.html

（大学教育イノベーションセンターHP ＞教職員のみなさまへ＞サマーワークショップ）

①のプログラムについては、別途、対象の先生方と日程調整をいたします。

◆問い合わせ先

学生支援部教育支援課教養教育班　寺川・俵

電話： 内線 2077（095-819-2077）

メール： fd@ml.nagasaki-u.ac.jp　FAX： 095-819-2259

◆部局 FD の提案

各部局に出張して実施する FD として以下を企画しています。（部局によって展開・形式が異なるものに関し、部局 FD として企画して頂ければ内容を部局に合わせた形で構成して実施致します。）

- LACS を活用した事前事後学習の組み込み方
- 授業用のワークシート等の作成
- 達成度の判断に使える評価基準（ルーブリック）の作成について
- 初年次セミナーのヒントになる事例の紹介　など

依頼される部局は左記の Web ページをご確認ください。

主催： 教務委員会

企画・実施： 評価・FD 教育改善専門部会

大学教育再生加速プログラム

「Innovative Newsletter」は文部科学省採択事業「大学教育再生加速プログラム」【テーマ I（アクティブラーニング）・テーマII（学習成果の可視化）複合型】の補助金を受けて作成しています。

長崎大学 NAGASAKI UNIVERSITY

Innovative Newsletter
平成 28 年 7 月　発行
編集・発行： 国立大学法人長崎大学大学教育イノベーションセンター
〒 852-8521　長崎市文教町 1-14　TEL: 095-819-2077
URL: http://www.innov.nagasaki-u.ac.jp/